

2021年度 第2四半期決算説明会における主な質疑応答

※説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、簡潔にまとめております。

【各事業に関するご質問】

<鉄道事業に関して>(決算説明会資料P 6～P 7 参照)

Q 業績予想と足元の状況の差異について教えてほしい。(定期外)

A コロナ前と比較して平日で10月は80%程度、11月は85%程度まで回復しているが、休日は平日よりそれぞれ10%程度低い状況である。業績予想との差異は、10月は上振れ、11月は概ね想定通りという状況である。

Q 年明け以降の回復の見立てについて教えてほしい。

A 第6波が来る可能性はあるが、ワクチン接種が進んでいることや、コロナ飲み薬の手配の状況が進んでいること、更に現在の感染状況などを総合的に見て、経済活動が止まるようなことは無いだろうと期待している。年明けには当初の業績予想時に想定していた回復曲線に追い付き、期末にはコロナ前の90%程度まで回復すると見立てている。

Q 運賃改定に対する考え方について教えてほしい。

A 同業他社様で運賃改定に動かれている状況などを踏まえ、当社も準備を続けていかなければいけないと考えている。

<バス事業に関して>(決算説明会資料P 6、P 8、P 37 参照)

Q 足元で軽油価格が上昇しているが、その影響を業績予想に織り込んでいるのか教えてほしい。また、今のような状況が続く場合、減便などを考えているのか教えてほしい。

A 足元の軽油価格上昇の影響については、前年度と比較して通期で10億円程度の動力費の増加を業績予想に織り込んでいる。

減便等については、路線バスは生活路線であることもありドラステックな対応は難しいが、高速バスは柔軟に対応していきたいと考えている。

Q 自動運転に対する考え方および導入時期について教えてほしい。

A 乗務員不足に対する抜本的な対策として非常に有効であると考えている。また、過疎路線での導入により、交通ネットワークの維持が期待でき社会的意義は大きいと考えている。当社は日本有数のバス保有会社として日本全体をリードする立場と考えており、積極的に取り組んでいく。

導入時期については、国の戦略として2025年を目途にレベル4（特定条件下における完全自動運転）を実現する方向で動いている状況を踏まえ、2025年までに福岡空港の国内線と国際線の旅客ターミナルビルを結ぶ専用道路で実現したいと考えている。

<鉄道事業、バス事業に関して>(決算説明会資料P6～P8参照)

Q 長期的に運輸業の営業利益はコロナ前の水準に戻ると考えているのか教えてほしい。

A 鉄道事業は、コロナ前の10年間は比較的投資を抑えてきたことなどもあり、実力以上に利益が出ていた部分もあった。一定の設備投資が必要な業種ではあるが、デジタル活用によるメンテナンス費用の削減なども進んでおり、コロナ前の水準には届かないが一定の黒字は安定的に確保していきたいと考えている。

バス事業は、鉄道事業に比べ損益分岐点が高いことなどもあり、回復しても収支均衡の水準までと見立てているものの、不採算路線の整理や公的セクターとの連携を通じて黒字を確保していきたいと考えている。

<国際物流事業に関して>(決算説明会資料P11～P12参照)

Q 当初の業績予想と第2四半期決算の差異について教えてほしい。

A 物流の混乱により仕入価格が上昇し粗利単価は下落したが、取扱高が増加したことにより粗利額は増加し、各国によって違いはあるが15%程度上振れした。

Q 下期の想定について教えてほしい。

A 当初の業績想定では、下期は物流の混乱による異常な状況は収まっていくと想定していたが、足元では上期の状況が続いており、来年の上期には落ち着いていくと見立てている。

Q 中長期的に半導体、電子部品を中心に物量が増加すると認識しているが、どのような対応を考えているのか教えてほしい。

A 決まったスペースを航空会社と契約しており、その契約を拡大していくことや、必要に応じて飛行機のチャーターを増やしていく。

【会社全体に関するご質問】

<来年度計画について>

Q 来年度計画では営業利益160億円、事業利益130億円としているが、変更の可能性があるのか教えてほしい。

A 現在、来年度の数字の組み立てについて議論を進めている最中であるが、方向性としては来年度計画の達成を目指していこうと考えている。

以 上